



長崎県五島振興局  
保健部部长  
(五島保健所長)  
近藤 徹

平成16年名古屋大学医学部卒業、北海道厚生連俱知安厚生病院にて初期臨床研修後、慶應義塾大学小児科学教室に入局。25年より名古屋大学大学院医学系研究科国際連携室、27年より厚生労働省、30年から現職。

医師16年目、行政医師7年目、保健所長4年目になります。少々風変わりな経歴について、今回貴重な誌面をお借りしてお伝えする機会をいただきました。お忙しい方は読み飛ばしていただき、お時間のある方は、こんな奴もいるのか、とご覧いただければ幸いです。

### Before 五島移住

幼少期は阪神間で育ち、中・高は四国のミカン畑に囲まれた男子校で6年間寮生活を送りました。浪人中に、阪神淡路大震災に被災、家は全壊したものの幸い家族にけがはありませんでした。いわばバブル方式で無事医学部に進学したものの、このままさらに6年間ダブル方式で卒業してしまえば、かつてさえ医師になれへんかもなあ、何者でもないうちにいろいろ見とくとあかんかなあ、とぼんやり考えながら、旅を始めました。公衆衛生などの単位も落しながらも、3年長く大学に在籍させてもらい、日

本、世界を周りましたが、いま振り返ってみて転換点になったかと思う旅は、西アフリカ横断(セネガル、マリ、ブルキナファソ、ガーナ)、中東縦断(トルコ、シリア、ヨルダン、エジプト、イスラエル)、アジア周遊(タイ、カンボジア、ベトナム、ネパール、インド)です。さらに、6年生の時、交換留学制度を使って、ポーランドのバルト海沿いにあるGdansk医科大学で臨床実習に参加する機会をいただきましたが、4か月にわたりスペインやドイツなどヨーロッパの医学生と寮生活を送るなかで、日本の医師養成システムとの違いを垣間見ました。

国家試験は3回目です。学

医療人材支援センター」のアレンジで視察させていただきました。産婦人科医の妻は島の産婦人科医院の先生に憧れ、私は国境を衛(まも)る行政の仕事に魅力を感じ、再度教授にお願いして、平成30年7月に五島市へ移住しました。

### After 五島移住

五島列島はかつて遣唐使船の日本最後の風待ちの地として知られ、空海もここから唐へ旅立ったと言われています。また、五島列島には50を超える教会建築があり、4つの集落は世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として登録されています。

五島保健所が所管する五島市は大小152の島々からなる五島列島の南西部にあつて、11の有人島と52の無人島から構成され、人口は約3万6千人、高齢化率は約40%です。五島保健所は五島列島最大の島である福江島にあり、島の面積は326.43km<sup>2</sup>で名古屋市と同じ大きさです。病院は4つあり、一番大きな病院は長崎県病院企業団が運営する総合病院である五島中央病院(304床)です。

管内には有人離島が多いことから、次世代オンライン遠隔診療システムやドローンによる医薬品配送等の実証実験が行われています。2022年秋に始まるNHK朝の連続テレビ小説「舞いあがれ!」では、島を行走来できる電動小型飛行機を飛ばすことという夢に向かって頑張るヒロインの物語が、東大阪と五島列島を舞台に描かれるようです。

福江島は長崎本土まで100km、済州島まで200km、上海まで600kmに位置し、まさに国境に位置する離島であることから、平成29年4月に施行された有人国境離島法において地域社会を維持すべき、特定有人国境離島地域と位置付けられています。新法による雇用創出事業もあり、移住者が増え、転入者が転出者を上回る社会増が2年続いています。移住者の定着率は8割を超えるそうです。私自身、この島のおおらかで、排他的でない雰囲気と居心地の良さを感じています。なお、令和元年度の合計特殊出生率は全国では1.36、長崎県は1.68、五島市は2.16でした。長崎県の離島はほぼ毎年2.0前後あり、奄美諸島には及ばないものの、

生時代に憧れて何度も訪れた北海道の中でも、特に美しいニセコの大自然に囲まれた俱知安厚生病院で初期臨床研修を修めました。後期研修は、魅力的な教授の下、温かな先生方が集う雰囲気と惹かれ、日本最大の小児科医局である、慶應義塾大学小児科学教室に入局しました。山が好きで、山並みが見える病院を希望し、栃木県、静岡県との関連病院で研鑽(けんくわん)を積んでいたところ、大学時代の友人から母校での国際関係の仕事を紹介されました。海外の協定大学と連携した国際共同博士課程(ジョイント・ディグリープログラム)の立ち上げに携わりましたが、日本初の試みで、上司が何度も霞ヶ関へ足を運んでいたのを見ていました。たまたま学生に混じって受けた公衆衛生の授業で、厚生労働省の医系技官として活躍する先輩が魅力的な仕事をしているのを知り、こんな世界があったの

子どもを授かりやすい環境であるといえるかと思えます。44歳で第2子を授かりましたが、島では3人以上子どもがいる家族をよく見かけますし、会議や研修がオンラインになり、家族と一緒に過ごす時間が増えたことから、第3子も授かれました。五島市では漁業だけでなく、子

牛の生産と五島牛の肥育も盛んです。五島保健所の獣医師が全頭屠畜検査を行っており、2年度の実績は牛462頭、豚1万5172頭でした。また、当保健所は学生の離島実習にも積極的に協力しており、2週に1回、私は主に保健所の概要、行政医師、およびDHEATについて1時間講義をしています。2年度はZoom講義も含め、延べ医学部生72名、歯学部生36名の講義を担当しました。アンケート調査では、講義を聞いて行政医師への興味が増えたと回答する学生が一定数おり、手応えを感じています。

なお、食品衛生協会の下五島支所が当所内にありますが、2年度食品衛生指導員活動優秀支部・支所表彰に選ばれるなど、活発に活動されており、連携してHACCP

か、と教授にお願いして霞ヶ関に人事交流制度で出向させていただきました。

厚生労働省では医薬・生活衛生局血液対策課、医政局総務課医療国際展開推進室、社会・援護局保護課と3局3課を計3年3か月経験いたしました。尊敬できる上司や同僚に巡り会えたこと、各分野の第一線で活躍される方々とお仕事させていただけたこと、ファクトの宝箱の中でいわゆる「ファクトフルネス」が鍛えられたこと、その他、新聞記者に出待ちされたことやモスクワへ出張したことなど、いろいろと濃密な時間を過ごしました。

そんな中、第1子が生まれ、子どもは大自然の中で伸び伸び育てよう、と夫婦で考え、有楽町の「ふるさと回帰支援センター」に相談に行つたところ、長崎県のブースで五島列島を紹介されました。とんとん拍子で話が進み、「ながさき地域の推進等を進めています。

### 研究活動について

五島列島にはHTLV-1(ヒトT細胞白血病ウイルス)キャリアの方が比較的多いこともあり、AMED(日本医療研究開発機構)研究班で分担研究を担当しています。各種アンケート調査ではご協力いただいております。この場をお借りして御礼申し上げます。研究活動を通して、実臨床で患者と向き合う先生方のお考えを伺うことができ、また、ブロックを超えて保健所長の先生方と意見交換する機会もいただきました。地域によって施策の進め方や考え方が違うことを知るなど、目から鱗(なまこ)が落ちる経験もありました。忙しい業務のなかでも、研究活動を行うことのメリットを感じています。

### 最後に

これまでも困ったときには、必ず新たな展開が現れ、自身の成長につながってきました。数々の出会いにとても感謝しています。今後とも、ご指導のほど、よろしくお願いたします。